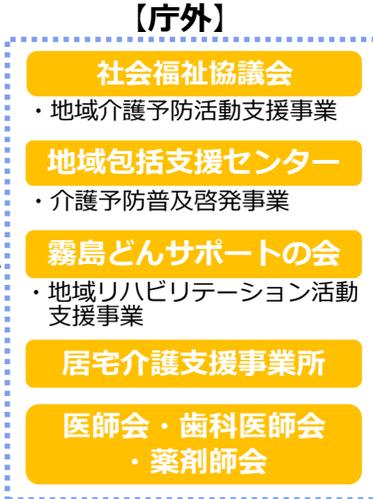
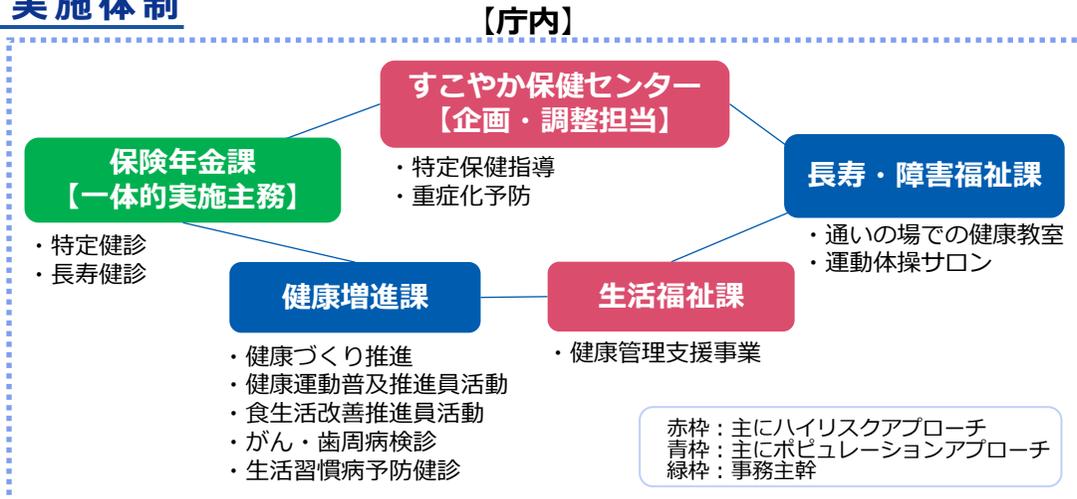


鹿児島県霧島市 生活習慣病の重症化を防ぎ、新規人工透析導入者の減少を目指す

実施体制

市の概況(令和4年4月1日時点)		
人口		124,330人
高齢化率		28.1%
後期被保険者数		16,999人
日常生活圏域数		10圏域



取組の経緯

- 一体的実施に係る事業を始めるにあたり、霧島市の現状をKDBシステムで分析・確認したところ、脳血管疾患、腎不全などが多いことが分かった。また、現場において、新規人工透析導入者を一人でも予防したいという強い思いがあり、そのためには、早期からの取組が必要であるということから、市内の関係課で話し合いを重ね、すこやか保健センターを企画・調整の担当部署として、令和2年度から事業を開始することとなった。

企画調整・関係機関との連携

- 市内（保険年金課、すこやか保健センター、健康増進課、生活福祉課、長寿・障害福祉課、各総合支所）及び市外（社会福祉協議会、地域包括支援センター、霧島どんサポートの会（霧島市における介護予防の推進を図る目的で活動する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士で構成する団体）、居宅介護支援事業所）の関係者間で健康課題の共有や既存の関連事業との調整を行う。
- 三師会（地区医師会、歯科医師会、薬剤師会）等と連携し、事業の企画段階から健康課題の共有、事業企画等の相談及び実施状況等の報告を行う。
- 地域の多様な社会資源や行政資源を踏まえた事業全体の企画・調整・分析を行い、事業計画を策定する。

ハイリスクアプローチ

- **低栄養防止・重症化予防支援、口腔指導、服薬指導**
 - ・低栄養・フレイルが見られる者、生活習慣病が疑われる未受療者、生活習慣病の治療中断者等、国保からの要継続支援者を対象に訪問する。
 - ・定期的治療の必要性、適切な歯科受診や健診の受診勧奨を行う。
 - ・対象者に訪問を行い、本人の状況を確認し、適正服薬についての助言を行う。
- **健康状態不明者等**
 - ・過去1年間に健診・医療・介護受診状況を確認し受診がない者を対象に訪問する。必要に応じて医療機関への受診勧奨や介護、福祉部門と連携する。

ポピュレーションアプローチ

- **地域のひろば（通いの場）**
 - ・自治会の希望する講座（運動、栄養、口腔、薬、認知症などフレイル予防に関わる健康教育、健康相談）を実施する。
- **「運動体操サロン」の設置**
 - ・令和3年度、2か所で開始し、令和4年度は3か所に拡大した。今後も実施地区を順次拡大していく。



理学療法士による講座『自分のできる骨盤底筋体操』

鹿児島県霧島市

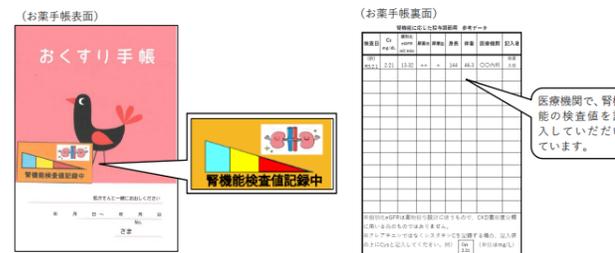
事業結果と評価概要（令和3年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	糖尿病性腎症重症化予防	114	89	<ul style="list-style-type: none"> 受診状況 医療機関との連携 次年度健診結果 	<ul style="list-style-type: none"> 未治療者が医療機関受診につながった 17人(87%) CKD報告 11人 (腎専門医につながった 4人) 医療機関と連携した栄養指導 18人 健診データ (HbA1c、eGFR)については、次年度健診結果で評価予定
ポピュレーションアプローチ	その他複合的取組 (健康教育・健康相談・健康状態の把握)	-	1,206	<ul style="list-style-type: none"> 通いの場の参加者数 質問票から医療や介護につないだ人数 長寿健診受診者 アンケート 運動機能の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 質問票から医療や介護につながった 25人 C型事業につながった 2人 通いの場につながった 2人 長寿健診受診率 R2年度36.2%⇒R3年度34.8% 体組成測定では、推定骨量や骨格筋量が優位に上昇した アンケート⇒運動体操サロンが役に立った 82% ⇒運動教室を継続して欲しい 90% 2圏域で運動教室の立ち上げができた

ハイリスクアプローチについては、糖尿病、高血圧、慢性腎臓病（CKD）重症化予防を重点的に取り組み、ポピュレーションアプローチについては、フレイル予防の普及・啓発に取り組んだ。

令和4年度は庁内担当部署の重点的な課題を「高血圧対策」とし、ポピュレーションアプローチでも高血圧重症化予防の普及・啓発に取り組んだ。

また、CKD重症化予防の一環で、三師会（地区医師会、歯科医師会、薬剤師会）と連携・共同してCKDシールを作成、お薬手帳に貼付し情報共有を行い、重症化予防の促進に努めた。



課題・今後の展望

- 団塊の世代が後期高齢者となり対象者も増えるため、国保保健事業から引き続き重症化予防に取り組んでいく。また、高齢者の健康状態について、個人差に応じた事業を進めていきたい。
- 今後も、通いの場等の充実を図り、各圏域の特徴を活かしながら実施体制を強化していきたい。